

守口市におけるニホンミツバチの生息状況

菅原 道夫

伝統的養蜂として主に山間地で続けられてきたニホンミツバチの飼育は山間地の過疎化に伴い飼育されている蜂群の減少と共に、森林の植林によってその自然群の減少も憂慮されている(岡田 1985, 岡田 1990).

一方、在来種のニホンミツバチの保護と増殖そして研究を目的として飼育を始める人も増えていると言う(中村 1996).

わが家のお墓にニホンミツバチが巣を作ったこと(菅原 1996)をきっかけに、山間部で減少していると言われるニホンミツバチが市街地にどれほど生息しているのか、また、できればそのニホンミツバチを自宅で飼育してみたいという願望からこの調査に取り組んだ。

1. 市街地としての守口市

守口市は大阪府の北東部に位置し、大阪市に隣接する(図1)。北部に淀川が流れ、南部には花博が開催された鶴見緑地公園がある。市内には所々に、木が茂る寺や神社があるが他は家屋が密集している。田や畑はここ数年の間に著しく減少し周辺部にわずかに残る程度である。

それでも秋には公園の空き地や淀川の河川敷にセイタカアワダチソウが花をつけるし、初春にはウメの花が所々の家の庭に見られる。

2. 駆除対象としてのニホンミツバチ

守口市には市役所に環境衛生事務所がある。“公園の木にケムシが発生した”“下水にカガが発生した”などという通報に対処している。ミツバチの駆除も環境衛生事務所の作業項目に含まれていた。分蜂群は職員が掃除機で蜂を吸い取り、巣はシロアリ駆除を行っている業者に委託



図1 大阪府における守口市の位置



図2 巣, 分蜂の見られた場所

表1 守口市におけるニホンミツバチの生息状況

状態	場所(概況)	年月日	住所	経過
1 巢	神社の社の天井裏に存在。直径30cmほど	'96, 4, 29	守口市金田町6-15	駆除
2 巢	神社のクスの木の幹に巣が存在する	'96, 4 継続	守口市金田町6-15	数年前から存在
3 巢	神社のクスの木の幹に巣が存在する	'96, 4 継続	守口市金田町6-15	数年前から存在
4 巢	神社の社の天井裏にあった	'95, 5, 20	守口市佐太中町7-16	駆除
5 巢	蔵の床下に存在した。幅90cm 巣板8板からなる	'96, 4, 27	守口市大久保町4-22	駆除, 捕獲
6 巢	倉庫の天井裏に見られた	'95, 6, 28	守口市大日町3-4	駆除
7 巢	お墓の墓石のなかに見られた	'95, 7, 10	守口市八雲北町1-21	駆除(3年間存続)
8 分蜂群	巣から5m離れたサクラの幹に集まる	'95, 4, 21	守口市八雲町1-20	駆除, 捕獲, 8月に逃亡
9 巢	お寺の大イチョウの幹に存在する	'96, 7 継続	守口市竜田通り1-5	10数年前から存在
10 巢	お寺の墓石の中に存在	'96, 7, 20	守口市竜田通り1-5	駆除, 捕獲
11 巢	神社の社務所の天井裏に見られた。大きい	'96, 5, 11	守口市高瀬町1-2	駆除
12 巢	民家の屋根裏に存在	'95, 4, 21	守口市高瀬町3-43	駆除
13 分蜂群	民家	'95, 4, 19	守口市大宮通り2-21	駆除
14 巢	民家	'95, 6, 21	守口市寺方錦通2-26	駆除
15 分蜂群	マンション	'95, 4, 20	守口市南寺方東通り5-80	駆除
16 分蜂群	民家	'95, 5, 17	守口市南寺方東通り2-27	駆除
17 巢	民家	'95, 5, 22	守口市南寺方東通り2-12	駆除

して取り除いている。

ミツバチの駆除の依頼は4~6月に集中する。分蜂期と雄蜂が巣の周辺を飛び回る時期に駆除依頼がくるのであろう。

1995年度のミツバチ駆除の実績を教えてください、通報者にそのミツバチがニホンミツバチであったか聞き取り調査をした。1996年度は通報があったすべての現場を訪れ、蜂の群れを観察、捕獲した。その結果を表1, 図2に示す。

表1, 図2, に見られるように守口市全域でニホンミツバチの生息が確認できた。駆除依頼のあったミツバチはすべてニホンミツバチであった。守口市内でセイヨウミツバチが飼育されている例は聞いたことがないし、市内に咲くウメや淀川のセイトカアワダチソウにはニホンミツバチしか見られないことから、守口市内には現在ニホンミツバチだけが生息していると考えられる。



図3 天井裏に巣ができた社



図4 幹の中に巣を作られたクスの木



図5 蔵の床下の巣



図6 大イチョウの幹に見られたハチの出入りする穴

3. ミツバチの生息状態

1996年4月から通報のあった巣は次の通りである。加えてわが家のお墓の巣についても報告をする。

- ・守口市東部、金田町の津嶋部神社には3つの巣が見られた(1, 2, 3)。境内には10数本のクスの木があり、本殿から離れた小さな社(図3)の天井裏と2本のクスの木(周り2m位)の幹の中に巣(図4)が存在した。

参拝の妨げになるので社の巣は撤去した。大きき30cm程、1年前に分蜂した群れと思われる。

- ・守口市東部、大久保町の民家の蔵の床下(5)にも巣(図5)は見られた。蔵の土台の石垣から蜂が出入りし、出入り口が頻繁に人が通行する道路に面しているため巣の駆除が依頼された。30cmの床板3枚分、90cmの幅、地面から40cmの空間に8枚の巣板を持つ巣が形成されていた。

- ・守口市中央部、竜田通りの難宗寺の境内には2つの巣が見られた(9, 10)。大阪府の天然記念物に指定されている大イチョウ(樹令400年)の地上5mのところにあいた幹の空洞(図6)に蜂は出入りしていた。数年前に蜂を駆除しようとしてその空洞に火を付けた新聞紙を投入したが、蜂は駆除できずそのままになっている。10数年この巣は存続しているらしい。

境内の墓石のなかの巣(図7)は、墓石が少し傾いているのを直す事と同時に撤去することが計画された。納骨空間いっぱいになられた巣

がクレーンにより墓石とともに持ち上がり、蜂と巣を取り込むことができた。

- ・守口市南西部、高瀬町の高瀬神社、社務所の天井裏に巣(図8)は見られた。蜂は屋根の瓦の隙間から出入りしていた。天井板をはずすと巨大な巣が現れた。60×50cm、厚さ50cm。巣の表面に蜂がびっしり付いていて巣板がどのように並んでいるのかさえわからない。巣を取り除き、次の日、巣を取り除いた後に集まった蜂を掃除機で吸い取る。蜂の総重量938.3g(働き蜂100匹4.7g雄蜂10匹1.1g)この巣における働き蜂と雄蜂の比率は480:27であったので、ほぼ17800匹の蜂を吸い取ったことになる。巣を取り除くときにも多くの蜂が死んでいるのでこの巣には2万匹以上の蜂がいたと思われる。

- ・守口市北西部、八雲北町の墓地の墓石の中に巣(図9)が見られた(7)。1年間で納骨空間いっぱいになり、3年間存続した。分蜂が1995年4月に見られた(8)。



図7 お墓の巣



図8 社務所の天井裏に作られた巣

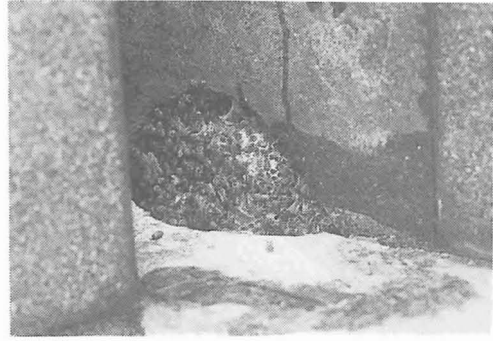


図9 わが家のお墓の巣

4. 守口市内のニホンミツバチ

暖冬、猛暑と言われた1994、1995年に比べると冬が比較的寒かった1996年は駆除依頼が少ないという。特に分蜂群の駆除依頼がなかった。

6km×4kmの長方形に入ってしまう守口市内で毎年5個以上の巣が駆除される。いくら駆除されても駆除できない巣からの分蜂によって毎年新しい巣が作られているのであろう。守口市内では、ミツバチは採蜜域を重ね合わせ生活していると思われる。

自然破壊が進む中で野生のニホンミツバチが名古屋近郊へ入り込んできている(丹羽, 1988), という報告と同様に守口市内でもニホンミツバチは人による駆除をかいくぐり立派に生息していると思われる。

最後に情報を提供していただいた守口市環境事務所山田 勇所長に感謝いたします。

(〒570 守口市八雲北町1-29-5)

参考文献

- 岡田一次. 1985. 遺伝. 39(10): 58-68
 岡田一次. 1990. ニホンミツバチ誌
 菅原道夫. 1996. 遺伝. 50(6): 72-74
 中村 純. 1996. ミツバチ科学. 17(2): 71-76
 丹羽新太郎. 1988. ミツバチ科学. 9(3): 131-132

SUGAHARA, MICHIO. Distribution of *Apis cerana japonica* in Moriguchi City, Osaka Prefecture. *Honeybee Science* (1997) 18(1):17-20. 1-29-5, Yagumokita, Moriguchi, Osaka, 570 Japan

Moriguchi City is located in northeastern part of Osaka Prefecture, and the environment is typically suburbanized year by year. The city office for environment and public hygiene has duty to control insects bothering human life, such as caterpillars and mosquitoes, and honeybees are also included in the list. The author reported 2 years record of requests from citizens for controlling honeybees in this city.

All of 17 colonies or swarm clusters found and controlled were of Japanese honeybee, *Apis cerana japonica*. There was no commercial beekeepers and no *A. mellifera* foragers on flowers were found, thus honeybees living in this city is limited to only the native honeybee, and colonies survived and were saved from control by human continue to produce swarms every year.